

出石藩の殿様も愛でた仙桜

樽見の大桜



文化財ミニパンフ

国指定 天然記念物 樽見の大ザクラ 昭和 26 年 6 月 9 日指定

樽見の大桜は、養父市大屋町樽見字ケジメ 85 番地にあります。大屋町樽見の集落からみて南側の山の中腹、標高 350 m の位置にあります。集落からの比高差は 130 m、林道を車で上がり、駐車場から徒歩約 200 m の位置です。国指定文化財の名称は「樽見の大ザクラ」ですが、一般的には「樽見の大桜」の名称で知られています。兵庫県下で最大のエドヒガンザクラであり、樹齢 1000 年といわれています。樹高は 13.8 m、幹廻りは目通りで 6.3 m、根周りは 7.0 m あります。地上から 2 m のところで幹が分かれ、枝張りは東西 14.4 m、南北 21.1 m になります。幹の表面には、樹皮がコブのように盛り上がり老木の風格を示しています。

昭和 42 年頃から幹や枝に枯れが目立つようになり樹勢が衰退してきました。このため昭和 48 年、地元に樽見大桜保存会が発足しました。しかし平成 5 年には桜の花や葉がさらに減少し、樹木の幹や枝だけが目立つようになりました。樹木医はガイコツのようだったと表現しています。そこで文化庁・兵庫県教育委員会・兵庫県樹木医会・兵庫みどり公社などの支援をえて、当時の大屋町が平成 9 年から樹木医による土壌改良や不定根の育成など、樹勢回復のための本格的な治療を開始しました。平成 16 年度から養父市が維持管理を続けています。

現在では樹木全体を覆うほど多くの花や葉が茂るようになりました。そして周囲には樽見の大ザクラの実から育てた若木が育ち、兵庫県を代表するエドヒガンザクラの名所となっています。4 月の桜が開花する時期には駐車場から山道を歩いて約 1 万人の見学者が訪れています。



満開の大桜

樽見の大桜の治療

樽見の大桜は、樹齢千年ともいわれる古木です。大きな幹の中心部は腐って空洞になっています。このため樹木が自分の重量を支えられなくなり、幹が縦方向に裂けて割れ目が入っています。また大きな枝も枯れています。対策として昭和47年、大屋町が大桜付近の土地1,000㎡を買い上げ、樹木を伐採して日当たりを良くしました。また昭和61年には10,000㎡に土地を拡大し、大桜に支柱を設置しました。そして平成9年から樹木医による樹勢回復を進めています。

樽見の大桜を復活させる取り組みは、樽見区の樽見大桜保存会をはじめ、兵庫県樹木医会の松元廣美氏・段林弘一氏・宮田和男氏・鳥越茂氏、樹木医の安田邦男氏、神戸大学の武田義明氏、養父市大屋町の尾崎弘明氏など多くの人々が尽力しています。

樹木医による治療

治療のポイントは7点あります。第1、桜の幹が自力で枝を支えられないことから鉄製のジャングルジム支柱を作って樹木を支えています。第2、桜の周囲に柵を設置して立入を禁止し、根の付近の土が踏み固められない対策をとっています。土が固まると根が枯死します。第3、鉄管から水圧20kgで深さ約1mまで水や肥料を入れ、穴にはスーパーソイル（粒状改良土）を入れて土壌改良を実施しています（グラニューインジェクション法）。第4、定期的に水を与える自動灌水装置を設置しています。第5、腐朽部等を治療し、枯れ枝を切除します。枯れ枝を放置すると腐れが広がり、腐朽菌も発生します。第6、木柵で囲って鹿の食害防止対策をしています。

そして一番重要な治療が第7として、不定根の育成です。地上から数m上の幹の間から栄養を求めて、春に細いヒゲ根が出現します。これが不定根です。しかし夏には乾燥して枯れてしまいます。このため不定根にミズゴケを巻いて水をやりながら地面に到達するまで育成します。現在、5本の不定根が地面に到達し、幹のバイパスとなって養分を直接、枝に運んでいます。このため新しい枝が伸びて花の量が増大しました。

(参考文献)

『国指定天然記念物 樽見の大ザクラ保護増殖事業報告書』平成11年・大屋町教育委員会発行

『国指定天然記念物 樽見の大ザクラ記念物保存修理事業報告書』平成17年・養父市教育委員会発行



ジャングルジム支柱に支えられた枝



幹の間から出現した不定根



地面に到達した不定根



4月初旬 大桜の開花状況



3月初旬 開花前の保護作業

出石藩と仙桜

樽見の大桜は樹齢が千年を越え、別名を仙桜せんざくらとといいます。出石藩さくらいせきもんの儒学者桜井石門（桜井一太郎）が、文政6年（1823）3月、樽見の大桜を見学して仙桜と命名しました。

大正11年（1922）桜井勉さくらいつとむが著した『校補但馬考』という書物には、「この樹は、元禄年間（1688～1704）前後に最も盛んで、その当時は高さが5丈（15.1m）を超え、枝は20間（36.3m）四方にひろがり、花が咲くと、白雪に覆われたように白くて美しい。出石藩主こいでふさやす小出英安侯（1637～1691）も見学に訪れた」と記しています。また明治3年、出石藩知事仙石政固せんごくまさかた侯と桜井勉が、麓から見上げた時には、桜は勢いよく杉や檜の上に突き出ていたと言います。

大正15年の写真を見ると風格のある兵庫県下最大の桜樹です。桜の周囲には下草の笹が繁り、山の斜面に幹が立っています。昭和6年5月20日、兵庫県指定天然記念物となりました。

平成8年兵庫県樹木医会は、大桜の樹勢は重症ですが、樹の生命力によって樹幹内部に小さな根が発生しており、この根を大切に、桜の樹勢回復を図りたいと報告しています。

エドヒガンザクラ

樽見の大ザクラは、エドヒガンザクラという日本に古くから自生する品種です。日本にはヤマザクラやオオヤマザクラをはじめ、カスミザクラ、オオシマザクラ、マメザクラ、チョウジザクラなど10種類ほどの自然種があります。その中でもエドヒガンザクラは巨木になりやすい品種で、多くの銘木があります。

全国各地で見られるソメイヨシノ（染井吉野）は、明治時代の初めに東京の染井村から広まりました。エドヒガンザクラとオオシマザクラの雑種といわれています。ソメイヨシノは人工的に作られた園芸用の品種で、エドヒガンザクラの性質を一部受け継いでいます。

樽見仙桜
樽見村職占（はじめ）山にあり。里人いふ。此樹の最も盛なりしは、元禄（1688）1704前後にして、当時は高五丈（15・1尺）に過ぎ、枝柯（しか）東西南北各二十間（36・3尺）にわたり、花時に至るごと、皎々（こうこう）として白雪の如くなりしかば、出石城主小出英安（ふさやす）公特に来て之を觀たまひしかありと。余が先人（桜井石門）も、文政六（1823）年三月を以て之を賞し、呼（よび）て仙桜となし、為めに古風の詩を賦（ふ）す。詩中に、星霜不知数。名樹固無両。周匝（しゅうとう）過三匝。蟠蜿（はんゑん）はらんわん）殆十丈。花若鮮妍（げんげい）積雪。枝若天矯（よ）うぎよう）兮修蟠。東風吹起雪翻空。白日失光忽驚紫。
文政六年は、今茲（いまより）大正七（1918）年を距（へ）だたること、殆（ほとんど）百年なり。恨（おしむら）くは、里人利を重んじて、名樹を軽んじ、四面にうふるに杉檜を以てす。然れども、余（桜井勉）が明治三（1870）年に出石藩知事仙石政固（まさかた）君に従ひ、其麓を通過せしときは、其幹亭々として猶（なほ）杉檜の上に挺立せしか。爾來（じらい）又殆（ほとんど）五十年。其周回二丈（6尺）余と其高五丈余は依然往年に異ならずといえども、枝柯（しか）に至りては、漸次杉檜の為に逼迫（ひつぱく）せられ、今や東西十間（18・1尺）、南北十二間（21・8尺）に過ぎず。人をして長大息（ちようたいそく）に堪へ（さら）しむ。

『校補但馬考』 桜井勉著 大正11年7月発行

時期	内容
元禄頃	出石藩主小出英安侯が見学する
文政6年	1823年出石藩儒学者の桜井石門が見学し、仙桜と命名する。
明治3年	仙石政固・桜井勉が麓から桜を眺める。
大正7年	桜井勉が杉檜の植林による衰退を確認。
昭和6年	兵庫県指定天然記念物となる。
昭和26年	5月10日国指定天然記念物となる。
昭和42年	枝が枯れ始め、目立ってくる。
昭和47年	大屋町は土地1000㎡を買い上げ、杉等140本を伐採する。
昭和61年	大屋町は土地10000㎡に拡大し、補強支柱・遊歩道と休憩所を設置。
平成8年	兵庫県樹木医会が「大桜保護管理診断書」を作成する。
平成9年	2ヶ年で樹勢回復事業を実施。木製ジャングルジム支柱の設置、土壌改良等。樹木医による不定根の育成を開始。
平成10年	
平成13年	口大屋小学校が子ザクラを植える。
平成15年	2ヶ年で樹勢回復事業を実施。鉄製ジャングルジム支柱に更新。自動灌水装置。
平成16年	
平成26年	樹木医による樹勢回復・管理を継続。

樽見の大桜年表



樽見の大桜（平成2年4月）



山陰線養父駅に下車し県道八鹿若桜線を行くこと約20キロにして養父郡口大屋村役場に達す。其の間自動車の便あり、約1時間にして達することを得べし。仙桜は同地道路元標より東南約1キロ山腹桑園中に聳立す。樹種は白彼岸に属し、県下最大の桜樹たり。地上約2メートルにして数幹に分れ、樹冠の拡り3.8アールに達す。枝に枯死せる部分多く、樹勢稍衰ふ。

地上1.5メートルの幹回 5.15メートル
樹高 20.0メートル

樽見の大桜（大正15年）兵庫県史跡名勝天然記念物調査報告第4号 昭和2年（1927）3月発行より

●国の天然記念物

国指定天然記念物の巨木は但馬地方に6本、兵庫県下では他に2本あります。その内の3本が養父市にあります。養父市は天然記念物の宝庫です。

昭和26年6月9日、但馬地方にある5本の巨木が一度に国指定天然記念物になりました。樽見の大ザクラ（養父市大屋町樽見）、口大屋の大アベマキ（養父市大屋町中）、建屋のヒダリマキガヤ（養父市能座）、糸井の大カツラ（朝来市）、畑上の大トチノキ（豊岡市）です。その他に昭和3年、八代の大ケヤキ（朝来市）が国指定になっています。

●口大屋小学校

平成17年度まで、麓には口大屋小学校がありました。口大屋小学校の校歌には、「けじめの山の大きくら、朝日ににおう花のごと」という歌詞があります。校歌に歌われた「けじめの山の大きくら」は、樽見の大桜のことで

平成11年4月に樹木医が大桜の種を拾い集めて発芽させ、口大屋小学校の児童が花壇に植えて苗木を育てました。この苗を平成13年3月、樽見の大桜の周辺に20本植えました。樽見の大桜（親桜）に対して子桜と呼んでいる新しい桜も立派に成長しています。

●桑畑あとの石垣

大桜に続く山道には、いたる所に石垣が積み重ねられています。これは養蚕に利用した桑畑の跡です。養蚕（かいこを飼って繭をとる仕事）が盛んだった大正時代、人々は山の奥まで切り開いて桑を植えました。この付近は石が多いので、石を取り除いて桑畑を作ること大変な作業でした。そして、掘り起こした石を畑の周囲や山道の両側に積み上げました。

養蚕には大量の桑の葉が必要です。10貫目（約40kg）以上もある桑の葉を担って帰るといって大変な重労働でした。昭和30年代から桑に代って杉や檜が植えられるようになりました。

●付近の見学施設

付近には大屋あゆ公園のレストラン、おおやアート村ビッグラボ、加保坂ミズバショウ公園、大杉の木彫展示館、蔵垣の上垣守国養蚕記念館、あけのべ自然学校・明延鉦山探検坑道、関宮の山田風太郎記念館などの見学施設があります。



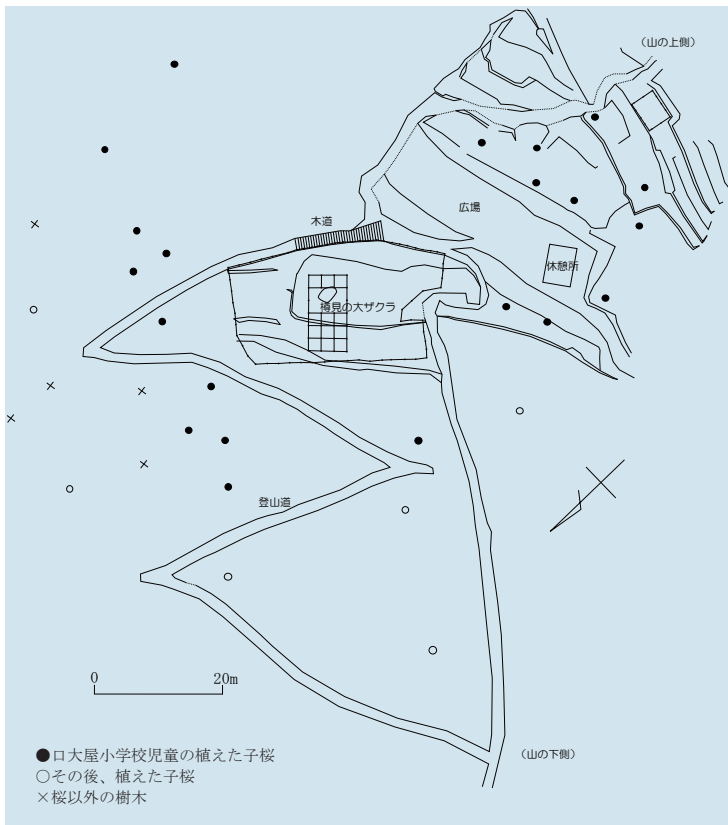
登山道から見た大桜



大桜と周囲に大きくなった子桜



国指定天然記念物 口大屋の大アベマキ



樽見の大桜森林公園



樽見の大桜位置図

大屋川沿いの県道を大屋町中から林道に入り、登山口に至る。駐車場（20台）から徒歩15分。混雑時は交通規制あり。